認知症ケアでつながる人々　稲田秀樹

かまくら認知症ネットワーク代表理事
ケアサロンさくら　施設長

町内会館の前の公園で記念撮影

奥山信一さんは認知症に加えて進行性の前立腺癌を患っていた。平成24年3月には癌が尿管をせき止めてしまうようになった。尿が逆流して腎臓機能が悪化し腎不全の状態にあると主治医から聞かされていた。今泉台の町内会館前の公園でのお花見に参加した後は、一進一退の状態となった。デイサービスも休むことが多くなった。

奥山さんが自宅にこもりがちになっているのを心配した今泉台すけっと会の伊藤さんから、再度デイサービスに復帰させることはできないものかと相談を受けた。本人もそうだが、奥さんも大変だろうからと伊藤さんは言っていた。隣近所の付き合いが希薄な時代だが、この地域には住民同士の支えあいの仕組みができていた。伊藤さんの言うのももっともと思い、すぐに自宅へ伺った。ベッドに横たわっている信一さんの顔を見ながら簡単な会話を交わした。信一さんは笑顔で握手をしてくれたが、心配がよぎった。その場で訪問診療をしている主治医に携帯で連絡を取った。ベッドから動かすこと自体危険かもしれないと伝えた。すると医師から、何とかご夫妻を勇気づける別の方法を考えてほしいと頼まれた。

お見舞いに行こうと決めたのは、その帰り道だったろうか？ケアサロンさくらに戻って、逆デイの計画を話すと職員皆が賛成してくれた。決行の日を決めて信一さんのケアマネジャーに連絡を入れると「参加します」とすぐに返事があった。5月7日の午後、ケアサロンさくらの利用者みんなで信一さんの自宅を訪ねた。だれとなく「だいじょうぶよ」「がんばってね」と声をかける。ベッドで休んでいた信一さんの顔に笑みがあふれた。

皆でお見舞いに行った4日後の5月11日は今泉台の町内会館でタレントの毒蝮三太夫の特別講演が行われていた。ケアサロンさくらの電話が鳴った。葉子さんからだった。「いなださん、たすけて！」悲鳴のような声に思わず駆け出した。枕元に駆けつけたときにはまだ呼吸も脈もあった。医師の到着を待つ間に信一さんの顔が少しずつ穏やかになっていく。その時のことを「主人は自ら目を閉じて、ほほ笑むような表情になったんです。懐かしい誰かが迎えに来たような、安心した感じがしましたね」と後に葉子さんが話してくれた。

お見舞いの時のひとこま

信一さんが息を引き取ったすぐ後に今泉台すけっと会の人たちが駆け込んできた。一人が“奥山さんへ”と書かれた毒蝮三太夫の色紙を葉子さんに手渡した。葉子さんは色紙を信一さんの枕元に置いた。訪問診療の医師が来て最後の診察を行い死亡診断書が書かれ、親戚の人やケアマネジャーもが駆けつけてきた。皆で信一さんを見送った。

その出来事から10日後の2012年5月21日、葉子さんは太陽の形をいくつも書いた紙と鉛筆を持って自宅の2階のテラスに上がった。日本中が金環日食で沸いていた。日食グラス越しに空を見上げ、欠けていく太陽の形を記録に収めていた。

☆3月19日(火)　映画『毎日がアルツハイマー』　場所：鎌倉市生涯学習センター（午前、午後、夜の3回上映）
国立長寿医療研究センター遠藤英俊医師推薦！！当日チラシを持参すると前売り料金で入場できます♪
★3月24日(日)午前　認知症サポーター養成講座「認知症の理解と対応」講師：稲田秀樹　10:30～12:00　場所：NPOセンター鎌倉2階
☆3月24日(日)午後　認知症の人や市民の交流活動　「かまくら散歩」　谷戸の春を歩こう 13:30～16:00 場所：鎌倉中央公園
24日は午前に講座受講し午後に「かまくら散歩」で認知症の人と交流体験を行うことが可能です。詳しくは事務局へお問い合わせを♪

～ 次号予告 ～
- ☆第10回「かまくら散歩」～春の谷戸を歩こう～の報告
- ☆認知症サポーター養成講座「認知症の理解と対応」の報告
- ☆映画「毎日がアルツハイマー」上映会の報告
- ☆地域の動き、認知症ケアでつながる人々

3月･4月の予定

3月　9日（土）	認知症相談	鎌倉市役所
3月18日（月）	運営会議	NPOセンター鎌倉
3月19日（火）	映画「毎日がアルツハイマー」	鎌倉生涯学習センター
4月19日（金）	運営会議	NPOセンター鎌倉
4月27日（土）	認知症相談	鎌倉市役所

★会報発行にあたり題字を当会会員で若年性認知症の古川さんのご子息（知的障害のある茂明君）にお願いしました。また、毎号イベントの写真はケアマネジャーの出口慎一氏より提供頂いています。（稲田）

鎌倉市との協働事業
認知症相談事業（予約制）
専門職の有資格者が症状の背景や介護の仕方について解かりやすく説明！
•･･･かまくら認知症ネットワークが相談員を派遣しています …

3月9日（土）
鎌倉市役所
13:30～16:30

お問合せ･相談のご予約は、鎌倉市役所　市民健康課まで
でんわ 0467-23-3000　内線 2678（受付 8:30～17:15）

入会ご希望の方へ
FAXで入会申込書希望と書いてお送り下さい
～　資料をお送りいたします　～
FAX　0467－39－5490
一般社団法人　かまくら認知症ネットワーク　事務局
［問合せ先　TEL　0467－47－6685］

会員種別　年会費
1．個人正会員　　３０００円
2．個人賛助会員　２０００円（一口以上）
3．団体賛助会員　２０００円（一口以上）
※申込書送付後、年会費をお振り込みください。
郵便振込口座　00240－8－140587
口座名　一般社団法人　かまくら認知症ネットワーク

一般社団法人
かまくら　認知症ネットワーク
9号
題字　古川茂明

●会報（隔月刊）9号
●2013年3月1日発行
●編集発行人
一般社団法人かまくら認知症ネットワーク
〒247-0056鎌倉市大船1-22-2-402号
●TEL0467-47-6685
●郵便振替
00240－8－140587
●編集責任者　稲田秀樹

認知症になってもみんなで一緒に支えあえるために、それぞれの立場からできることを考えた一日でした　！

1月26日（土）鎌倉市福祉センターで、鎌倉市認知症地域支援フォーラムが開催されました。午前中は、当ネットワークの理事も務める栗原大輔医師（ドクター・ゴン鎌倉診療所）の講演から始まりました。先生は症例を交えながら、地域で支えるために必要なこととして、病気だけではなくもっと大きな枠組みで考える必要を提言され、「知る」「向き合う」「支える」「支えあう」ことが大切と話して下さいました。

その後、鎌倉市立腰越中学校、清泉女学院、鎌倉学園の生徒さん達が、高齢者や認知症の人たちとの交流体験の感想を話して下さいました。時代を担う10代の皆さんの温かくも頼もしい報告がありました。

午前の最後にコーディネーターの永江孝美さんより、大牟田市での小中学校絵本教室、徘徊模擬訓練などの取り組みの紹介がありました。鎌倉市でも大いに参考にさせていただきたい内容でした。

午後は、認知症の本人、介護家族、地域包括、医師、警察署からパネリストが登壇しパネルディスカッションが行われました。それぞれの立場からのお話でしたが、キーワードは「連携」であったかと思われます。

最後にグループワークが行われ、グループごとに熱い議論が交わされました。1日を通して、認知症を「知る」こと、そして地域で「思いやり」を持って「支えあう」ことがとても大切であると思いました。（HT）

『鎌倉のフォーラムに参加して感じたこと』　永江孝美　　大牟田市認知症ケア研究会

今回、はじめて鎌倉市認知症地域支援フォーラムに参加させて頂きました。午前の部では、これからの鎌倉市を担ってくれる子供達の福祉体験を通した発表がありました。子供たちの優しい気持ちに触れて嬉しく、また頼もしく思いました。午後の部では、認知症の当事者やご家族、地域包括支援センター、医師会、警察署とそれぞれの分野からお話がありました。いずれも「連携することが課題だ」とこれからの地域作りに向けてのテーマを述べられていたように感じました。

私が住む大牟田市でも「人・心・まちづくり」と題して、多職種、多分野そして大人も子供も一同に会し一年間の活動の振り返りをする機会があります。毎年課題を明確にし、次年度に繋げ、認知症の人や家族の支援を通して少しずつ輪が広がっていき、人と人が支え合うことの大切さに気付きながら今日に至っております。

大牟田市がこれまで続けてきた様々な取り組みは、一人の思いや、地域や介護の事業所だけで継続することはできません。また行政だけでも成し得ることではありません。互いが自分たちの住む地域をよりよいまちにしようと、連携し協働し取り組んでいくプロセスが地域に力をつけていくのだと思っています。これからの鎌倉のまちが、認知症や障害があってもなくても、大人も子供もみんなが安心して暮らせるまちとなりますよう応援しております。

最後に、このたびは関係者の方々にとても温かく接して頂きました。心からお礼を申し上げます。

『若年認知症支援研修会』　主催:かまくら認知症ネットワーク　鎌倉市福祉センター

１月１６日（水)、鎌倉市福祉センターにて、若年性認知症の介護家族等を講師に迎えて、ケアマネジャーや介護家族、地域包括支援センター職員らを対象にした研修会が行われ、55 人の参加がありました。

研修会は「若年期認知症ハンドブック」(公益社団法人認知症の人と家族の会神奈川県支部発行）を教材に用い、実際に様々な支援制度を活用してきた若年認知症の介護家族の方々の話を聞きながら支援方法を体験的に学ぶ内容となりました。

若年認知症の方のなかには40歳代や50歳代の働き盛りで病気を発症する方もおり、経済、就労、子育て、介護環境などの様々な面で困窮してしまうケースが多く、社会問題になっていて支援策の充実が必要と言われています。

研修会では家族の会の世話人より若年認知症の現状と課題について説明があり、次いで実際に介護家族の方々が介護の体験談を交えながら支援制度について解説してくださいました。

若年期認知症ハンドブック編集委員の三橋良博さんによると、精神症状を抱える認知症の人に適用できる支援制度として『自立支援医療』の制度があるが、「このことを知っているケアマネジャーがほとんどいないこと、行政や地域包括の職員も知識があるとはいえずスムースに支援を受けられないケースが少なくない」とのことでした。介護家族の方たちの実体験の話からは想像を超える困難な状況が垣間見え、これからは支援にかかわる専門職が支援制度について知識を得ておく必要があると痛感しました。

参加者のアンケートにも「行政は申請主義でありアクションを起こさなければ何も動かない」という声や「オープンに話してくださり立派だと思った」などの感想が寄せられていました。

そのほか若年認知症を支える社会資源として県内の複数の地域で開催されている『若年期認知症の集い』の鎌倉市開催についても「実現の場合には協力を惜しまない」とエールをいただきました。(IN)

写真左、堀場伸子氏、三橋良博氏、小林俊一氏、小宮勇氏、田村加代子氏（席順）

認知症介護講座『認知症の疾患別の理解とケア』　主催:かまくら認知症ネットワーク　鎌倉市福祉センター

２月１４日（木)、鎌倉市福祉センターにて、シニアライフ振興財団ケアマネジメント担当課長で川崎市認知症介護指導者でもある神田けい子先生をお招きして認知症介護講座「認知症の疾患別の理解とケア」が行われました。参加者は在宅のケアマネジャーや訪問介護やデイサービスの職員らのほか、介護家族や市民の方など１０７名の参加がありました。

講座の前半では特に近年注目されている３つのタイプの認知症について学びました。一つはレビー小体という特殊なタンパク質が大脳皮質に広範囲に現れる「レビー小体認知症」です。この病気は幻視に基づく非現実的な妄想を伴うのが特徴です。

もう一つは脳の前頭葉と側頭葉に萎縮が目立つ「前頭側頭型認知症」です。この病気は行動がパターン化し、抑制が利かなくなり、社会的なトラブルを生じやすくなります。ただし本人が安心して過ごせる工夫を行うことで、周囲とのトラブルも軽減できるといわれています。その他、髄液が脳室にたまり脳を圧迫するために起こる「正常圧水頭症」があります。これは外科手術によって治すことのできる認知症です。

講座の後半では、これらの疾患をもつ人たちに対して、どこまでその人の思いに寄り添うことができるのか、様々な喪失体験をしている認知症のその人の「生き抜くことを支えていく」には私たちはどうあれば良いのかを、認知症の人の思いに心を寄せながら、神田先生の豊富な経験から学ばせて頂きました。受講者からは「このように深い気づきと学びのある研修会は初めて」といった感想が多く寄せられました。

要介護高齢者の６０％が認知症である現在、介護の専門職がしっかりした知識を持ち、目の前にいるその人の声を聴き、しっかりと向き合うことができるのかどうか、それが求められているのだと感じました。(IN)

認知症のその人についてあなたはどれだけ知っていますか？と問いかける神田けい子先生

一般社団法人　かまくら認知症ネットワーク会報　隔月刊　　2013年3月1日発行　NO．９

地域の動き『認知症相談』　市民活動団体と鎌倉市による協働事業　鎌倉市役所　鎌倉市

２月９日(土)、鎌倉市役所にて毎月１回実施されている「認知症相談」が行われました。

認知症相談は、鎌倉市とかまくら認知症ネットワークとの協働事業として平成 23 年度から実施されています。鎌倉市市民健康課が事務局となり、介護の専門職（有資格者）２名が相談にあたります。

この事業の目的は、介護福祉士や介護支援専門員等の専門職が認知症の基礎知識や対応方法について助言を行うことで、認知症の当事者等の困難の軽減を図り、また必要に応じてサービスや社会資源の活用に結びつくるように情報提供を行うというものです。

相談は事前の申し込み制（予約制）となっています。鎌倉市市民健康課の担当者の方によると、「相談に見えるのは介護家族ばかりではなく、認知症と診断された当事者からの相談も珍しくない」とのことでした。

鎌倉市も超高齢社会に突入した今、市民一人一人が認知症について正しい理解を持つ必要があるようです。認知症相談には、鎌倉市役所で行われるもののほかに、神奈川県鎌倉保健福祉事務所や認知症を支える家族の会「かまくらりんどうの会」でも相談を行っています。

一人で抱え込まずに、なるべく早くからこうした機関につながることが安心への第一歩になります。（HS)

地域の動き『若年期認知症よこすかのつどい』　会場:神奈川県立保健福祉大学　横須賀市

１月１２日（土）第６回「若年期認知症よこすかのつどい」に参加してきました。当日は５０～７０歳代の男性介護者８人、女性介護者４名、本人４名、その他に行政、マスコミ、認知症の人と家族の会神奈川県支部のスタッフなど、総勢で３０名ほどの集いでした。

家族らの意見交換の場では、若年性認知症の妻の障害基礎年金の請求に当たり「精神障害１級」の認定が出て受給にいたった、引きこもっていた夫がデイサービスで食材の仕込みや、厨房の整頓・清掃など色々な役目をもらい「職を得た気分」になり覇気を取り戻した。また、激しい不穏症状で多くの通所介護施設に受入を拒否され続けていた女性は、この集いの紹介で知った施設の門をたたいた所、すんなり受け入れて頂き通所できるようになったという話など、今回は、何組かの介護家族から、集いでいろいろ助言してもらったことを試みた結果、いままでの「悩み、課題」が解消した、解決できたといったうれしい報告がありました。

家族が情報交換をしている間、若年認知症の本人たちは介護事業所の職員やサポーターと楽しく時間を過ごしていました。

「若年期認知症のつどい」は神奈川県内の他の地域でも開かれています。問い合わせは☎044－522－6801 家族の会神奈川県支部まで、お気軽に。(TS)

地域の動き『男性介護者の体験談』　横浜市緑区役所　横浜市

１月 26 日(土)、横浜市緑区役所主催の介護者向け講演会が横浜市の中山地域ケアプラザで開催されました。参加者の半数以上が現在介護をされている家族の方で２９名の参加がありました。講師は当ネットワークの理事でもある白鳥哲夫さんが務めました。

講演会では、若年性アルツハイマー病の奥様を介護した体験談を中心に話されました。奥様の様子が変わっていき認知症とわかるまでの長い間の混乱の状況やサービス利用につながった経緯、その間に学んだ介護法や介護家族としての気持ちの変化、公的な支援制度の活用法など、多岐にわたる話題をエピソードも交えて話してくれました。

参加者には、実際に家族を介護している方が多く、うなずきながら聞いている姿も目に付きました。白鳥さんの実体験の話を聞いて「目から鱗で、大変勉強になった」「良いかかわり方が本当に大切なのだと理解した」などの感想も聞かれました。また　講座終了後のアンケートにも「同感でうなずくことも多々あり、何か肩が軽くなりました」と介護家族の方の声が寄せられていました。

講演会を主催した緑区役所の担当者の方にお聞きしたところ「今回は介護家族という同じ立場の方の介護体験のお話でしたので、参加者の方々も共感するところがとても多く参考になったと思います」と感想をいただきました。(IN)